

**三重・鳥羽市立
かもめ幼稚園**

保護者へ教育的意図発信

三重県鳥羽市立かもめ幼稚園では、本物の「もの・こと」と出会いを大切にした保育実践を重ねることで豊かな感性や創造性、人間性を育む取り組み

提言は、教育課題(A)、かもめ幼稚園の西飯陽子主教教育内容(B)、園経営任教育内容は秋田大学教(○)の3テーマで実施。育文化学部附属幼稚園の佐藤菜穂子副園長、園経営はた。

第75回全国国公立幼稚園・こども園長会総会・研究大会愛媛大会

全国国公立幼稚園・こども園長会(会長)高橋慶子・東京都墨田区立みどりがおかこども園園長)は6月14、15の両日、松山市で第75回総会・研究大会愛媛大会を開催した。研究主題は「未来を切り拓く力を育む幼児教育の創造」、改めて幼児教育の質の向上を考える」。参加者は、未来を担う人材の育成や幼児教育の未来の創造の観点から、教育内容および園経営の充実に向けた学びと意見交換を行った。



秋田大学 附属幼稚園

「関わり」捉え、遊び充実へ

秋田大学教育文化学部附属幼稚園は、「子ども一人一人が主体性を發揮し、さまざまな環境に興味・関心を持つ関わるうとする姿を願い、それぞれの遊びに沿った計画や援助、環境の構成を大事にしてきた。その中で「子どもにとっての関わりの意味、関わりを通して得られる経験や育ちを丁寧に捉える」「子ども同士の関わりと保育者の援助を考察し、遊びの充実に生かす」を実践することと保育の質向上を目指せると考え、取り組みを進めた。

「子どもにとっての関わりの意味、関わりを通して得られる経験や育ちを丁寧に捉える」では、「エビソードメモ」、「エビソード記録」を活用している。子ども同士や保育者の姿も捉えられるようにして、関わりについて、保育者が心に残ったことを「エビソードメモ」として記録。他

いなかった状況での子どもたちから見た子どもたちの姿や他者から見た子どもたちの姿も捉えられるようにして、関わりについて、保育者が心に残ったことを「エビソードメモ」として記録。他の保育者ともメモを共有し合い、担任が関わっている。

和歌山・田辺市立 上秋津幼稚園 週1回、未就園児受け入れ

和歌山県田辺市立上秋津幼稚園では、少子化や子育て環境の変化に伴い、園児数なりをつくつていけるのが減少している。公立幼稚園が、公立幼稚園の良さであると想定されると考え、「公立幼稚園」と位置付け、未就園児を受け入れることで、地域の児童教育の拠点としての役割を担っていくとした。そこで、地域は最大の象とした園庭・遊戯室の開放、親子広場の開催を実施した。

議事の中では、持続可能な組織への移行に向けて、①総会・研究大会を令和10年度から東京開催に固定化、活動の重点、各部門委員会の活動計画を決めた。

令和10年度から持続可能な組織へ向けて、②特別資金(寄付金)を1口2千円とし、1口以上と改正する③機関紙「幼児教育じっぽう」の発行を年間10冊とし、購読料は維持する④賛助会員を募るーが承認された。

「未来を切り拓く力を育む幼児教育の創造」を主題に開催された総会・研究大会の様子。

例えば、地域の浜遊びでは、遊びの始まりを「遊びのオードブル」と名付けた浜遊びの一つ一つに味があり、オードブルを目の前に遊びを振り返り、次に生まれるだろう遊びを想像しながら、「遊びのメインディッシュ」という環境を整えた。

改めて幼児教育の質向上を考える

味を持ったかを探ることで、次の「遊びのステップ(浜で出会った発見、感動や気付き)」の味わいを深めていくだろうと考えた。

浜遊びに出掛ける前から子どもの興味・関心、遊びへの意欲が始まっており、その過程こそが大切にした

だ。ここでは、保育の流れやつながりをコースの料理に例え、保護者に発信し、遊びの始まりを「遊びのオードブル」と名付けた浜遊びの一つ一つに味があり、オードブルを目の前に遊びを振り返り、次に生まれるだろう遊びを想像しながら、「遊びのメインディッシュ」という環境を整えた。

例えば、地域の浜遊びでは、遊びの始まりを「遊びのオードブル」と名付けた浜遊びの一つ一つに味があり、オードブルを目の前に遊びを振り返り、次に生まれるだろう遊びを想像しながら、「遊びのメインディッシュ」という環境を整えた。